

令和6年度第2回文化推進審議会 会議録

日時	令和7年3月21日(金) 15:00～16:30	
場所	北館4階 教育委員会室	
出席者	会長 加藤 義夫 委員 枝元 益祐 委員 桑田 敬司 委員 藤田 美代子	委員 平井 章一 委員 岡 泰正 委員 ウイルソン 恵 委員 柏原 由紀
事務局	田嶋国際文化推進室長、中村国際文化推進課係長、田中国際文化推進課員、森山国際文化推進課員	
関係課	伊藤市長公室長、渡邊社会教育推進課長、木野市民センター長、鈴木図書館長	
会議の公開	■ 公開	
傍聴者数	0 人	

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題1 文化推進基本計画に基づく事業実施状況の評価及び報告について

議題2 次期文化推進基本計画策定に関する市民アンケート実施結果について

議題3 第3次文化推進基本計画の骨子(案)について

(3) その他

2 提出資料

次第

委員名簿

資料1 文化推進基本計画に基づく事業実施状況の評価及び報告説明資料

資料2 次期文化推進基本計画策定に関する市民アンケート実施結果

資料3 第3次文化推進基本計画の骨子(案)等

3 審議経過

< 中村企画部国際文化推進課係長より資料1説明 >

(加藤会長)

私から申し添えるのですが、総合評価に関しましては文化推進審議会をやる前に相談がありまして、ABCという3段階評価だったのですが、それだとほとんどがB評価ということが多かったのもう少しメリハリをつけたらどうですか、ということで4段階Sという評価を今回は設けていただいたようで、かなりメリハリが出来て市民の人達にもわかりやすい評価になっていると感じました。委員の皆様にご意見をいただきたいのですが、何かございますでしょうか。

(枝元委員)

ご説明の中の事業番号81シティプロモーション事業で「謎解きイベント」をしたという説明があったのですが、どんなイベントだったのでしょうか。

(伊藤委員)

令和3年の事業になりますので詳細は手元にないのですが、確認させていただき後ほどご報告させていただきます。

(枝元委員)

謎解きイベントはいろんな土地でやっていて、特にコロナ禍で流行っていたんですね。謎解きを外注すると思うのですが、事業者によってクオリティが異なるため気になっています。せっかく街を歩いてもらうことになるので、地域の商店や文化施設と協力しながらやっていたのではないかと思います。これで芦屋市民がより芦屋市を理解する、あるいは謎解きを目的に市外から芦屋市へやってくる起爆剤になると思ったので、どんなイベントだったのか知りたかったです。

(加藤会長)

ありがとうございます。他ございませんでしょうか。

(柏原委員)

行政からの視点として評価に関して気になる点が2つありまして、メリハリがあるという中でも特に情報発信の評価が気になりました。市民の皆様に届いているかどうかというより、市として情報を発信したという事実に対する評価になっていると思います。総合計画のアンケートの中で広報について「届いていない」という意見が多く挙がっています。本市において情報発信が大きな課題という中で文化についても届いていないと思います。全体的に見通してみても情報発信をやりましたというのは納得はするものの、これをもって達成できたとするのは、市民に対して伝わっているということと齟齬が出てくるのではないかと思います。事業としてやっているのであれば意味を持たせたほうが良いので、そういった観点での評価を所管課に確認してもらい、行政としてはやったけど、効果はどうかという総合的な評価であってほしいと思いました。

次に、出来ていなかったところについて、コロナ禍で病院がイベントを止めるということはわかりますし、病院以外のところは手段を変えてやることは出来たと思うんですが、回数が上がっているか、やったかどうかという評価は所管が実施しますが、その評価を次の計画に繋げないといけません。コロナ禍で人と接触できない中でデジタルアーカイブなどしっかり取り組んでいます、今後もやっていかないとはいけません。評価の時点ではこうした視点も踏まえた評価をしたほうが良いと考えます。単に回数や人数などの数ではなくて努力をして次につなげていくステップ、新たな手法を見いだせた、こうした過程も踏まえた評価とし、次年度以降に反映してもらいたいと思います。あと、説明資料①は再掲の事業に関しては斜め線があるのですが②にはないので、表記のルールは統一していただくようお願いします。

(加藤会長)

ありがとうございました。他ございますでしょうか。

(桑田委員)

商売人代表で来ていますのでどうしてもお金のことから物事を見てしまいがちなんですけど、費用対効果がこの資料を見てもわからないんです。一部「助成金幾ら払いました」とか「こういう補助金を出しました」は載っているんですけど、主にイベント関係の場合、一体いくらかった

のか、もし外注したのであれば外注費用がいくらかかって、何人来たんですか、どんな方に伝わったんですかとか。だけど情報発信はお金がかかりませんよね。SNSで。これはお金をかけずに何回発信しますだったりとか、何人が「いいね」をしましたとかという数字をもう少し具体的に載せてくれると、ただ何件やったではなくどれだけの人に伝わったかが見れるし、それにかかった費用がかかってないなら「数字が悪くてもいいんじゃないかな、これぐらいなら」、でもすごくお金がかかってるんだったら「こんな予算かけたのにこれだけなの。」とか。1つ1つ細かいところを見ていくとときがないんですが、例えば83番の事業で「うちわ作り」9人、「オリジナルパズル」17人いて、これが一体どれだけの費用をかけてというのが見えにくいので、せめてどれぐらいの費用がかかってお金をかけたものなのか、お金をかけずにできたものなのか、またどれぐらいの方がレスがあったのか。それを元に何年間かの数値比較をしていって、仮に「コロナがあったのでできませんでした。」とあるんですけど、今後次の計画の場合「コロナ明けでこういうふうな方法に変えていきました。その結果、こういうふうに認知してもらいました。」とかが増えれば、多分延べ選択の評価が目に見えてくると思うんですね。それで伝わらなかったというのであれば手法がまずいのかと、SNSで発信したけど登録者数がそもそもいないから伝わってないのであれば、今度は登録者数を増やすことを次の事業に盛り込まなきゃいけないよねって話し合いになると思うので、上手くかみ合うためにもう1歩踏み込んだことを加味した欄があれば、取捨選択もしやすいのかなというふうに感じました。

(加藤会長)

費用対効果に関して、はい、ありがとうございました。なければ次に進みたいと思いますので、議題の2、次期文化推進基本計画策定に関する市民アンケート実施結果についてご説明をお願いいたします。

< 中村企画部国際文化推進課係長より資料2説明 >

(加藤会長)

ありがとうございました。議題2市民アンケート実施結果についてのご意見はございますでしょうか。

(岡委員)

膨大な資料でなかなか難しいのですが、事務局としてはアンケートをされて、コロナという特殊な制約がある状態、期間なので同じように測れないんですよね。今言いたいのは、コロナが明けた状態のことを測っているのか、コロナでバイアスがかかっていた時のことと比較しているのかという、微増とか言われるんだけど、それは同じ状況の芦屋の文化意識が変わったということなのですか。

(事務局)

今回のアンケート結果というのは令和6年度に実施したものになっていまして、実際には先ほどの実績評価という3年間6点のものを示しているのですが、今回の四半期では6年のものになりますのでこれが明けてからということにはなっていますが、ただやっぱりコロナ禍の中で市民の考えに対する影響というのは少なからずあるのかなというふうには感じておりますので、ご説明をさせていただきました。今回の積み上げた令和6年と6年で比較したものですけど、

(岡委員)

比較したもので顕著な違いというのは見えるのですか。ここが非常に大きなポイントで変わったとかというのは今ご説明があった中ではよく読み取れなくて。

(事務局)

一番大きなところに関しましては実際に鑑賞参加を行っているけれど、この項目は興味がないとかですね、これからしてみたい興味があるという項目が減少しているということなんですね。つまり文化的なことや物を体験するのに今まで外出をしていたのが、せずにできるようになった。ただ今後コロナ禍が収束するにあたって、やっぱり実際に物を見てみたりとか実際そのものを感じてみたりとかというのがあると思いますから、その部分についてはこれから市としても重視していく必要があるんじゃないかなというふうに考えております。

(岡委員)

私どもは日展をやっているのですが、1万人目に選ばれた方は芦屋の方で66歳の方だったんですけどね。もうコロナのバイアスは取れていて、女性の年配の方だったんですけど動いてい

ると思いますね。逆にそんなバイアスはなくて自由に動かれている状態で。ただそれがこのアンケートでは顕著には見えないという。雰囲気の方が見えるというか、そういうふうには空気は読み取れるということなんですね。外に出ていこうという、自分の求めるものを見に行こうということなんですよ。それは読み取れるという話ということで理解したらいいいんですかね。

(事務局)

間接的ではございますがそういう形になると思います。

(加藤会長)

ありがとうございました。他ございますか。

(事務局)

先ほどの令和3年度の謎解きイベントのことについて十分なお答えができないところがあるかと思うのですが、民間の事業者様にイベント内容をご検討いただいて、その上で実施した事業であることが確認できました。LINEを使ったイベントのようでした、LINE自体の登録は370ほどの登録があって、その方が全員参加されたかどうかまではわからないんですけども、市内市外の方含めて370程度のLINEでの参加があったということまでは確認できております。その時の担当者に確認いたしますと、盛況であったとのことでした。

(枝元委員)

こういったイベント第2弾、第3弾とやっていったほうが定着が強いですね。一過性のイベントだと皆さん忘れてしまうので、是非とも難しいことでネタ切れも起こしやすいんですけども、第2弾、第3弾をやっていただけたらまず真っ先に私が挑戦して遊びに行きますので、よろしくお願いいたします。

(加藤会長)

ありがとうございました。それでは議題3、第3次文化推進基本計画の骨子(案)について事務局より説明をお願いいたします。

< 田嶋企画部国際文化推進室長より資料3説明 >

(加藤会長)

ありがとうございました。芦屋市の総合計画第5次なんですけども、総合戦略から文化推進の考え方ということでご説明をいただきましたけど何かご意見ございますでしょうか。Zoomで参加の平井委員様、今日3つの議題でお話を聞いていただいたと思うんですけども、何かご意見やご感想ございますでしょうか。

(平井副委員長)

これまでのお話を伺っていて疑問がいくつかあったんですけど、皆さんが質問をされたので私も少し被りますけれど、今までの評価ですね、アンケートの結果とか特に評価の部分で中でもSNSでの情報発信ができたという評価になっていますけど、ニュース的なものを何回やったとか、それをもって評価されているのか、あるいはやっぱり結果が大事だと思うので、それがどういう形でフィードバックされて、例えば美術館の観客像に何か反映されてるのかどうかというような検証を含めてできたという評価になっているのかがわからなかったのですが、先ほど委員の先生からもそういう質問があって市の方からも回答がありましたので、自分なりには理解できました。これからの計画については特別何かコメントというのもないのですが、今まであまり盛り込まれてなかった「外国人」ですとか今まで「こども」の話は出てきていたんですけど、障がいを持っての方への配慮や対応みたいなことが少し強い形で盛り込まれているのはとてもいいことではないかと思いました。

(加藤会長)

ありがとうございます。国際というと文化振興の中で言うと姉妹都市事業のようなイメージがあったんですけども、9万人を擁する人口の中の2千人ほどの外国人の方が現在芦屋市にお住まいということで、その人たちとの文化交流、日本語も含めての語学ということも積極的にしていこうということで、異文化の交流を市内の中でやっていくことが基本になっているという気はしました。今インバウンドも多いですし観光もそうなんですけども、含めてお住まいの外国人の方が多くそれぞれいろんな国の方がいらっしゃると思うのですが、その人達に対してのケアも含めて日本語を知ってもらうことで日本の文化を伝えていく1つの政策ということを考えてらっしゃるっ

という気はしたので、最近「国際」という言葉が僕の中で文化政策というよりは国際という部分の国際文化ということが非常に謳われてきたのかなと思ったりもしました。他ございますか。

(柏原委員)

今は本当に文化の捉え方が広がっています。このたびの総合計画と一体化して作るために意識をしていることは、文化単独で発信するのではなく、他分野の施策と連携をして発信していこうということです。文化は、人のつながり、地域のつながりなどに影響すると考えます。どうしても文化単体で発信するのはなかなか難しい。様々な施策において、文化的側面があると思いますので、それらとの連携によりまちづくりをすすめていきたいと考えています。また、コロナ禍ということで申し上げますと、人と接触しないということで、人のつながりが希薄になりました。今は、様々な手法で活動も再開されていますが、障がいのある人や外国人とのつながりについて、次期計画において意識しながら策定したいところです。あと1つは、部活動の地域展開を進めようとしています。国において、生涯にわたってスポーツや文化芸術などに触れる機会にもなるに言われています。スポーツ、文化の各計画にも組み込み、意識しながらしっかりと計画的にやって欲しいとも言われておりますので、国の動向を注視することにはなりますが、文化施策の中に地域展開もしっかり位置付けて進めていきたいと思います。

(加藤会長)

ありがとうございます。まだご発言をされていない委員の方がいらっしゃいますけれども、この3つの議題についてのご感想、ご意見等、何かありましたら。藤田委員お願いいたします。

(藤田委員)

私はルナホールのいろんな催し物をとても好んで参加しています。行くたびに1階のロビーの部分のスペースが非常にもったいないと思うんです。あそこに例えばストリートピアノのようなものを1台置けたら、どんなお国の方やどんな年齢の方であろうと常に弾ける。例えば土日の決まった時間を設けて、管理が大変でしょうけど1人20分くらいで制限して、あそこに行ったらピアノが弾けるぞというような楽しい環境をお作りいただけたらないつも思っていました。

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。ウィルソン委員お願いいたします。

(ウィルソン委員)

評価の資料1に関してなんですけれども、事業実施状況と理由は多分改善してると思うんですけど、事業実施状況が中止だったらもう二度とされないのかどうかというところがよくわからなかったんですが、例えば10～12、「新型コロナウイルス感染症の影響のため」中止ということでしたら、開けたら再開されるということでしょうか。

(事務局)

この中止に関しましては令和3年から6年の間に中止ということをごさいますて、今後については状況を見ながらやっていくということになると思うんですが、完璧になくなるというわけではないですけど、ただ10と11に関しましては病院という特性上今後の実施は難しいかもしれませんが、こちらも完璧になくなったということではございませんので。

(ウィルソン委員)

そうしたら継続と同じですね。

(事務局)

意味合いとしてはおっしゃる通りで、この期間に関しては中止していたというのがこの表の構成となっております。

(ウィルソン委員)

ありがとうございます。あと92と93で中止となっているんですが、「新規事業実施のため」ということで新規事業を開催されていて中止の理由が新規事業実施のためというのがよくわからないなと思ひまして。人数が少なかったから中止なのかとか、そういう部分がわかればわかりやすいかなと思ひまして。

(事務局)

この折り紙教室、人形劇の会というのはこれまでずっとやっておりましたが、人数が少ないと

いうよりも時代に合った新たな事業、違う事業を開始したいということで、一旦この事業をやめたということでございます。

(ウィルソン委員)

別事業を実施されたということですね。わかりました。ありがとうございます。

(柏原部長)

92と93は中止ですけど、病院においては中止というより休止みたいな形かもしれません。今おっしゃっていただいたご意見を反映するほうがいいと思いますので、休止と中止の区別の調整を事務局の方でお願いします。

(事務局)

先ほどの藤田委員のルナホールのピアノの件ですけど、ホワイエの部分だと思うんですけど調律とかいろいろあってなかなか難しいとは思いますが、持ち帰って検討させていただきたいと思います。

(加藤会長)

ありがとうございます。他何かご意見ございますでしょうか。

(桑田委員)

今回議題2、第3次文化推進基本計画の骨子(案)について、案に関して言うともともと第2次が令和7年までがあるので、次年度から今度第3次の案を作りますよ、という認識でいいんですかね。

(事務局)

これまでの例えば今ご説明させていただきました評価であったり、これはちょうど事業年度の評価を今回させていただきました。あと市民アンケートであったりということで、この次の計画を作るにあたって、その前段階にアンケートであったり、評価であったりというのを進めて参りました。実際は次は令和8年3月だから7年度末に今の計画が終わり、次の計画がちょうど3月末か

4月の頭からスタートということになりますので、今この段階でまず骨子というか考え方の方向性をまずこの審議会の方でご意見を賜りながら、次は原案をまたご提示、ご意見を賜りながら、あとはまた議会の方、パブリックコメントを通して市民の意見をいただきながら、総合計画で今同じような歩調で進めて参りますので、計画の審議会の関係も含めたところの段階を含めて、来年度、年明けからはもう少しその骨子案から次の原案に進めていって計画を作るということになります。

(桑田委員)

今回我々2年目の終わりじゃないですか。メンバーが変わるかもしれないですね。それで次のメンバーで骨子に肉付けしていくという認識で。そういう認識でいうとこの骨子案、今日提出いただいた部分でも幾つか気になる点があって、やっぱり芦屋文化というのは建物と遺跡、歴史だけではなくて市民の生活様式も含めて文化ですよという認識だと思うんですね。その中で文化振興をやっていきましょうという骨子なんですけど、柏原委員がおっしゃるように最近では文化も多様性といろいろ言われていますので、文化振興の基本計画なんだけど文化のことだけじゃ駄目で、結局観光振興や商業振興という多岐にわたったものと連携させないと今の時代にマッチングしないようになってきてますので、そこをこの骨子に盛り込むべきなのか、骨子はあくまで文化の推進基本計画なので文化のことだけ書いておけばいいのかが若干気になってたので。今後そういうものを盛り込まないといけないのであれば、この骨子の肉付けの段階でそういう商業振興や観光振興も連携してやっていきましょうねと、あくまでこどもに文化的なことをやりたいという市民の声もある中で、脱出ゲームをするにしても市内業者や市内店舗とも連携しないといけないし、実質この基本条例の第5条で事業者というふうに役割を定義してますので、市内の行政以外の事業を行うものがあるにもかかわらず、あまりそういうのが見えないので見える形で書いてもらって、かつそれをしっかりと地域の商店だったりとか、文化政策のために協力してくださいとか一緒にやりましょうという発信を行政がしていくと、より市民にも身近になっていくと思うので、そこをうまくこの計画に盛り込めればなお1歩前進するのかなと思います。

(加藤会長)

ありがとうございました。政府の文化基本法が観光やまちづくりということを盛り込んでという話

になり、芸術文化だけでなく広範囲にわたって包括的に動いていくという方針に寄り添って考えられていった部分で、この基本法案と計画をすり合わせていった部分で、総合戦略という部分で文化を考えると文化のとらえ方が時代の流れもあり随分変わってきたという、そういう部分では観光やまちづくりが文化の1つの中心になってくる。今まで考えられなかったような流れではなくて、まちづくりということでは芦屋市の総合計画にも盛り込んで文化にも、ということですりあわせていただいているんだと思います。

(柏原委員)

現在、次期の総合計画の策定をしているところでして、所管として考えているのは、商業活性化だけではなくて、阪神間モダニズムなど地域資源を活かしているような事業者さんと一緒に事業展開をしてきた経緯もあり、こうした観点も総合計画の基本施策の中で組み込めないかという話も上がっています。今おっしゃっている内容というのは、まちの魅力・創造発信において、文化と多分野の施策というところで、経済やこども、福祉の分野など、本当にあらゆる施策とリンクさせていただく必要があるということで、記載するとしたら戦略的なまちづくりというところの中かと思います。本日、各委員よりいただいたご意見も踏まえ、所管課とも話をしながらどのような表現にしていくか考えたいと思います。

(加藤会長)

ありがとうございました。ご意見ございませんでしたら本日の議題は以上になります。事務局から何かありますか。

(事務局)

ちょうど任期2年ということでこの3月末ですね、2年間いろいろご意見いただきまして本当にありがとうございました。審議委員におかれましては完全に今回変わるということでございますけれども、この審議会につきましては各附属機関から出ていただいている方もいらっしゃいますので、引き続きお願いする方もいらっしゃいます。今後はわかりませんが、まずは本当に2年間本市の文化施策につきまして今日もそうですけれども大変ありがたいご意見いただきまして本当にありがとうございました。

(加藤会長)

ありがとうございました。今回の第2回文化推進審議会を終了したいと思います。ありがとうございました。

以上